

越ヶ谷秋まつり奉賛

久伊豆神社

奉拝 令和 年 月 日



右側 「久伊豆神社」の文字は金色の箔押し

左側 切り絵は年番町本町二丁目の山車と楠木正成の山車人形

※実物と色味に差異がございます

越ヶ谷秋まつり奉賛 御朱印 趣意書

七月一日より頒布

この度、当社では越ヶ谷秋まつりを奉賛する目的で、特別な御朱印を奉製いたしました。左記の趣意をご理解いただき、多くの方にご奉賛賜りますようお願い申し上げます。

越ヶ谷秋まつりは今から約三五〇年前の江戸中期、元禄年間から始まったとされる、五穀豊穡と越ヶ谷の発展を祈る伝統ある秋祭りです。おかしむかしは毎年行われ、昭和前期ころからは隔年で行われ、神社の例祭日である九月二十八日を初日とした三日間で行われていました。昔からの氏子の方々は、秋祭りのある年を「本祭り」の年、神社で祭典のみ行う年を「陰祭り」の年と呼んでいます。本年は、五年ぶりに「本祭り」の年を迎えました（十月十二、十三日齋行）。

昭和の中期ごろまでは、旧日光街道にある越ヶ谷宿の大店の旦那によって、さまざまに取り決めがなされて齋行された祭りでした。裕福な農家が多くいる「ヨチヨウ」の宮本町（旧四丁野村）に、久伊豆神社の御祭神を載せた神輿を担ぐことを依頼することから始まり、さらに市内の各地域から神楽師や囃子連中を呼び、商業地域と農業地域が協力して行ってきた、まさに越谷らしいお祭りでありました。

しかし、戦後高度経済成長とともに、越谷市の農業人口の減少、大型商業施設の増加、国策としての車社会の浸透、住宅地のベッドタウン化等が起こり、宿場としての越ヶ谷は徐々にではありますが確実に衰退し、それを支えてきた周辺の農業地域も、かつての力を失ってしまいました。したがって、越ヶ谷秋まつりについても、例祭日の齋行だったものが昭和五十二年からは十月の土日齋行となり、平成六年からは三年に一度、さらには不定期の齋行となったのも、やむを得ない変化であり、当時の人々が社会情勢の変化に対応してきた苦肉の策でありました。

この度の「越ヶ谷秋まつり奉賛 御朱印」は、この不定期齋行となった「越ヶ谷秋まつり」を、まずは定期齋行に、できれば隔年齋行へ、願わくば毎年齋行できるようにとの思いで奉製された御朱印です。久伊豆神社を大切に思ってくださいる氏子・崇敬者のみなさまとともに、越谷で生まれ育つ多くの子どもたちに、この伝統ある「越ヶ谷秋まつり」を伝えることができますよう、ご理解・ご奉賛の程を、切にお願い申し上げます。

なお、本御朱印は当久伊豆神社をご参拝された印としては、通常の御朱印と同様ですが、本趣意をご理解いただき、左記の通り一定金額以上のご奉賛を賜りますようお願い申し上げます。

御朱印 初穂料 五百円

越ヶ谷秋まつり 奉賛金 千円以上

※奉賛金は全額、越ヶ谷秋まつり実行委員会へ納め、「越ヶ谷秋まつり」が定期齋行されるように有効に活用いただきます。